

First Hit

Generate Collection

Print

L2: Entry 11 of 30

File: JPAB

Aug 18, 1998

PUB-NO: JP410215832A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10215832 A
TITLE: ROLLING WORK MACHINE FOR LAVER

PUBN-DATE: August 18, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NAKASAKO, KAZUFUMI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TAITO KOGYO KK

APPL-NO: JP09025089

APPL-DATE: February 7, 1997

INT-CL (IPC): A23 L 1/337

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the efficiency of the rolling work of laver by mechanizing the operation of forming and working the laver of a conical shape used for hand rolled sushi.

SOLUTION: This device is provided with a rotating body 15 provided in the conical shape capable of winding the laver on a side periphery in the conical shape, a holding mechanism for detachably sucking and holding the winding start end of the laver on the side periphery of the rotating body 15, a driving mechanism 17 for rotationally driving the rotating body 15 around the axis and winding the laver on the side periphery of the rotating body 15 in the conical shape and a joining mechanism 18 for bonding the winding end of the laver wound in the conical shape to the side periphery of the rotating body 15. Further, the holding mechanism is provided with an air ejection pump 62 for jetting air from the respective holding holes 15a of the rotating body 15 to the outside and detaching the laver in the conical shape.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-291337

(43) 公開日 平成7年(1995)11月7日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 65/10		A		
A 2 3 L 1/10		F		
B 6 5 D 85/50		E		

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-78453

(22) 出願日 平成6年(1994)4月18日

(71) 出願人 591154751

鈴木 允

大阪府寝屋川市八幡台11-29

(72) 発明者 鈴木 允

大阪府寝屋川市八幡台11-29

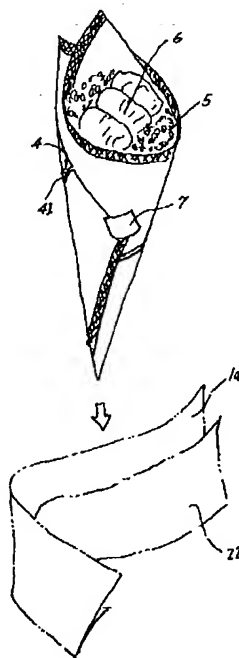
(74) 代理人 弁理士 丸山 敏之 (外2名)

(54) 【発明の名称】 円錐状寿司用包装シート及び包装円錐状寿司

(57) 【要約】

【目的】 包装円錐状寿司の包装を簡単に剥がす。

【構成】 長方形で幅方向の中間部に長手方向の全長に亘って分離可能部4が設けられた1枚の外フィルム1と、幅広フィルム片21と幅狭フィルム片22を夫々長手方向の内側縁を重ね合わせてなる内フィルム2との間にシート状食品3を挟み、外フィルム1と内フィルム2の外縁を熱溶着して形成され、幅広フィルム片21と幅狭フィルム片22の带状重なり部20は、外フィルム1の分離可能部4と略平行である包装シートの内フィルム2上に、略円錐状に纏めた飯をその先細先端が幅狭フィルム片22の長手方向の外端縁近傍に位置する状態に載せ、包装シートを飯5の円錐面に巻き付け、シートの外端をシール片7、熱溶着等にて内側のシートに止めている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 横長の長方形の1枚の外フィルム(1)と大小2枚のフィルム片からなる内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、外フィルム(1)と内フィルム(2)の外縁を熱溶着して形成された円錐状寿司の包装シートにおいて、外フィルム(1)には幅方向の中間部に長手方向の全長に亘って分離可能部(4)が設けられ、内フィルム(2)は幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)を夫々長手方向の内側縁を重ね合わせて形成され、幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)の带状重なり部(20)は、外フィルム(1)の分離可能部(4)と略平行であることを特徴とする円錐状寿司の包装シート。

【請求項2】 分離可能部(4)は、外フィルム(1)の全長に亘って細帯テープ(41)を接着して構成され、細帯テープ(41)の一端を引張ることによって、外フィルム(1)をテープ(41)の両側に2分できる請求項1に記載の包装シート。

【請求項3】 長方形で幅方向の中間部に長手方向の全長に亘って分離可能部(4)が設けられた1枚の外フィルム(1)と、幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)を夫々長手方向の内側縁を重ね合わせてなる内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、外フィルム(1)と内フィルム(2)の外縁を熱溶着して形成され、幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)の带状重なり部(20)は、外フィルム(1)の分離可能部(4)と略平行である包装シートの内フィルム(2)上に、略円錐状に纏めた飯をその先細先端が幅狭フィルム片(22)の長手方向の外端縁近傍に位置する状態に載せ、包装シートを飯(5)の円錐面に巻き付け、シートの外端をシール片(7)、熱溶着等にて内側のシートに接合している包装円錐状寿司。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、外フィルムと内フィルムとの間に、海苔等のシート状食品を挟んだ円錐状寿司用包装シート及び該包装シートにて包装した包装円錐状寿司に関するものである。

【0002】

【従来の技術】外フィルムと内フィルムの間にシート状海苔を挟んだ包装シートにて、三角おにぎり飯を包装して海苔の湿気を防止し、おにぎりを食する際に外フィルムと内フィルムを外して、乾燥状態のシート状海苔をおにぎり飯に直接に被せることのできる包装シート及び包装おにぎりは、広く知られている。

【0003】近似、手巻き寿司、即ち、シート状海苔にて飯を円錐状に巻いて具を載せた寿司を、機械力によって大量生産できる様になり、この手巻き風寿司を包装するシートとして図9、図10に示すものが実施されている。

【0004】上記包装シートは、従前の三角おにぎり飯の包装シートと同様にして、長方形の外フィルム(1)と

2

内フィルム(2)との間にシート状海苔(31)を挟み、外フィルム(1)と内フィルム(2)の外周を熱溶着して形成されている。

【0005】内フィルム(2)は、大フィルム片(23)と小フィルム片(24)を互いの内端を重ね合わせており、この带状重なり部(20)は内フィルム(2)の長手方向と直交している。略円錐状に纏めた飯をその先細先端が内フィルム(2)の長手方向の外端縁近傍に位置する状態に載せ、該内フィルム(2)上に包装シートを飯(5)の円錐面に巻き付けている。

【0006】寿司を食するには、一旦包装を解き、飯(5)を大フィルム片(23)に載せた状態で小フィルム片(24)を外フィルム(1)から外し、シート状海苔(31)を露出させる。(図10A)。飯(5)を転がして、露出したシート状海苔(31)上に載せる(図10B)。外フィルム(1)と大フィルム片(23)を引張って、シート海苔(31)全体を露出させ、該シート状海苔(31)にて飯の円錐面を包む(図10C)。

【0007】上記の手順は、包装寿司を台の上に載せて行なうと簡単であるが、手に持ったままでは難しい。しかし、包装寿司を台の上に横にして置き、上記作業を行なうと、具が零れて手巻き風寿司の美しさが損われ、又零れた具が台を汚す。しかも、飯(5)に海苔(31)を巻く際に、飯(5)に直接に手が触れて手がべつつく問題がある。本発明は、外フィルム(1)及び内フィルム(2)を夫々幅方向に2分できる様に工夫することにより、上記問題を解決できる円錐状寿司用包装シート及び包装円錐状寿司を明らかにするものである。

【0008】

【課題を解決する手段】本発明の包装シートは、横長の長方形の1枚の外フィルム(1)と大小2枚のフィルム片からなる内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、外フィルム(1)と内フィルム(2)の外縁を熱溶着して形成された円錐状寿司の包装シートにおいて、外フィルム(1)には幅方向の中間部に長手方向の全長に亘って分離可能部(4)が設けられ、内フィルム(2)は幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)を夫々長手方向の内側縁を重ね合わせてなり、幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)の带状重なり部(20)は、外フィルム(1)の分離可能部(4)と略平行であることを特徴とする。

【0009】本発明の包装寿司は、上記包装シートの内フィルム(2)上に、略円錐状に纏めた飯をその先細先端が幅狭フィルム片(22)の長手方向の外端縁近傍に位置する状態に載せ、包装シートを飯(5)の円錐面に巻き付け、シートの外端をシール片(7)、熱溶着等にて内側のシートに接合している。

【0010】

【作用及び効果】包装を解くには、包装寿司の先細側を下にして、外フィルム(1)を分離可能部(4)から該外フィルム(1)の幅方向に2分する。内フィルム(2)は、幅

広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)をその内端縁で重ね合わせて形成され、最初から幅方向に2分されている。

【0011】従って、シートの包装円錐状寿司の先細端を下方に引張ると、外フィルム(1)の下半体(1a)と内フィルム(2)の幅狭フィルム片(22)と一緒に引き出すことができ、シート状食品(3)の下部は、円錐状寿司の先細部分に直接に被さる。

【0012】包装寿司の先細先端側は、上部の開き側に比べてシートの巻き重なり面積が大きくなり、フィルムどうしの摩擦抵抗、特に内フィルム(2)の引張り抵抗が大きくなる。しかし、寿司の先細側には幅狭フィルム片(22)を位置させているため、然程大きな力を加えずとも、外フィルム(1)の下半体(1a)と内フィルム(2)の幅狭フィルム片(22)と一緒に引き出すことができ、型崩れしやすい円錐状寿司の先細部を原形に保つことができる。

【0013】次に、一方の手でシート状食品(3)の露出部をにぎり、他方の手でシートの上端を摘んで上方に引張る。外フィルム(1)の上半体と大フィルム片(23)が一緒に引き出され、飯の円錐面全体にシート状食品(3)が被さる。

【0014】上記の様に、包装寿司を、先細先端を下向きにして手に持ったまま包装を解くことができ、台の上で作業する面倒はなく、又、包装寿司の上端の具が零れることはなく、手巻き風寿司の美観を保つことができる。更に、手が直接に飯に触れることはなく、手がべつつく虞れもない。

【0015】

【実施例】外フィルム(1)は長さ約220mm、幅約140mmである。外フィルム(1)の幅方向の略中央部に、該フィルムを幅方向に2分する分離可能部(4)が設けられる。実施例の分離可能部(4)は、外フィルム(1)の全長に亘って細帯テープ(41)を接着して形成され、細帯テープ(41)の一端を引張ることによって、該テープの幅で外フィルム(1)を引き裂き、外フィルム(1)をテープ(41)の両側に2分できる。

【0016】内フィルム(2)は、長さ220mm、幅95mmの幅広フィルム片(21)と、長さ220mm、幅50mmの幅狭フィルム片(22)の夫々の長手方向の一側縁を5mm幅で重ね合わせたものであり、実施例では、带状重なり部(20)は単に重なっているだけで接着は一切接合されていないが、容易に剥がれる様に、スポット的に弱く熱溶着してもよい。幅広フィルム片(21)及び幅狭フィルム片(22)は、米飯に対してすべり易く且つ防湿性に優れたフィルムにて形成されている。

【0017】シート状食品(3)は、実施例では、長手方向の一側縁が真っ直ぐ辺(32)、他側縁が円弧状の膨らみ辺(33)となったシート状海苔(31)である。外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状海苔(31)を、そ

の真っ直ぐ辺(32)が内フィルム(2)の幅狭フィルム片(22)の外側の長辺に近づけて挟み、内外両方フィルム(1)(2)の外周縁、実施例では、長手方向の2縁を熱溶着して包装シートが形成される。

【0018】上記包装シートによって、円錐状寿司を包装するには、包装シートの内フィルム(2)上に、略円錐状に纏めた飯をその先細先端が幅狭フィルム片(22)の長手方向の外端縁近傍に位置する状態に載せ、包装シートを飯(5)の円錐面に巻き付け、シートの外端をシール片(7)、熱溶着等にて内側のシートに接合する。

【0019】寿司の具は、種類によって、飯を円錐状に纏める際に、飯と一緒に纏め、或いは、包装してから飯(5)の上に載せてもよい。包装済みの円錐状寿司は、例えばソフトクリームのコーンを立てて支持するスタンドを利用して先細部を下にして陳列する。

【0020】然して、包装を解くには、包装寿司の先細側を下にした状態でシール片(7)、熱溶着等によるシート外端の接合部を外す。外フィルム(1)を分離可能部(4)から上下に2分する。内フィルム(2)は、幅広フィルム片(21)と幅狭フィルム片(22)をその内端縁で重ね合わせているだけで、最初から上下に2分されている。

【0021】従って、シートの先細端を下方に引張ると、外フィルム(1)の下半体(1a)と内フィルム(2)の幅狭フィルム片(22)と一緒に引き出すことができ、シート状海苔(31)の下部は、円錐状寿司の先細部分に直接に被さる。

【0022】包装寿司の先細先端側は、開き側に比べてシートの巻き重なり面積が大きく、フィルムどうしの摩擦抵抗、特に内フィルム(2)の引張り抵抗が大きくなる。しかし、先細側には幅狭フィルム片(22)を位置させているため、然程大きな力を加えずとも、外フィルム(1)の下半体(1a)と内フィルム(2)の幅狭フィルム片(22)と一緒に引き出すことができ、型崩れしやすい円錐状寿司の先細部を原形に保つことができる。

【0023】次に、一方の手でシート状海苔(31)の露出部をにぎり、他方の手でシートの上端を摘んで上方に引張る。外フィルム(1)の上半体と大フィルム片(23)と一緒に引き出され、飯の円錐面全体にシート状海苔(31)が被さる。

【0024】上記の様に、包装寿司を、先細先端を下向きにして手に持ったまま包装を解くことができ、台の上で作業する面倒はなく、包装寿司の上端の具が零れることはなく、手巻き風寿司の美観を保つことができる。手が直接に飯に触れることはなく、手がべつつく虞れもない。

【0025】実施例の様に、シート状海苔(31)の上縁を円弧状に形成しておけば、円錐状飯(5)に巻いたとき、円弧状膨らみ辺(33)を飯の拡大端の外周高さに揃えて巻き付けることができ、美観が向上する。

【0026】図6は、外フィルム(1)の長手方向の一側

5

縁を該フィルムの幅方向に延長し、該延長部(10)にフィルムの長手方向に直交して複数の切込み(11)を等間隔に施したものである。上記外フィルム(1)の延長部(10)が、包装寿司の拡大側になる様に、シートを形成し、又、寿司を包装し、延長部(10)を寿司の具の上に被せて、具(6)及び飯(5)に埃が掛かることを防止できる。

【0027】図7、図8は外フィルム(1)の分離可能部(4)の他の実施例を示している。図7の外フィルム(1)は、長手方向への引っ張り力に対しては耐久性があるが、幅方向の引っ張り力に対しては、易引裂性を有する延伸合成樹脂フィルムにて形成され、外フィルム(1)の長手方向の引裂強度は220kg/cm、幅方向の引裂強度は10kg/cm、(試験法JIS-P-8116)である。

【0028】外フィルム(1)の一端縁の略中央部の2箇所に切込み(42)(42)を施しておく。切込み(42)(42)間を摘んで引張ると、外フィルム(1)は、切込み(42)(42)間の幅で長手方向に簡単に引裂かれ、幅方向に2分される。

【0029】図8は、外フィルム(1)の幅方向の中央部に、フィルムの長手方向に狭い間隔を存して平行にミシン目(43)(43)を施して分離可能部(4)となしたものである。尚、本発明の実施に際し、シート状食品(3)は、シート状海苔(31)に限ることはなく、シート状昆布等、食

6

することのできるシート状物であればよい。又、シート状食品(3)は、実施例の様に、円弧状膨らみ辺(33)を形成したものに限らず、外フィルム(1)よりも少し小さい矩形のものでもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】包装シートの分解斜断面図である。

【図2】包装シートの斜断面図である。

【図3】包装シートの断面図である。

【図4】包装円錐状寿司の斜断面図である。

【図5】包装を剥がした状態の斜断面図である。

【図6】外フィルムの他の実施例の斜断面図である。

【図7】分離可能部の他の実施例の要部斜断面図である。

【図8】分離可能部の別の実施例の要部斜断面図である。

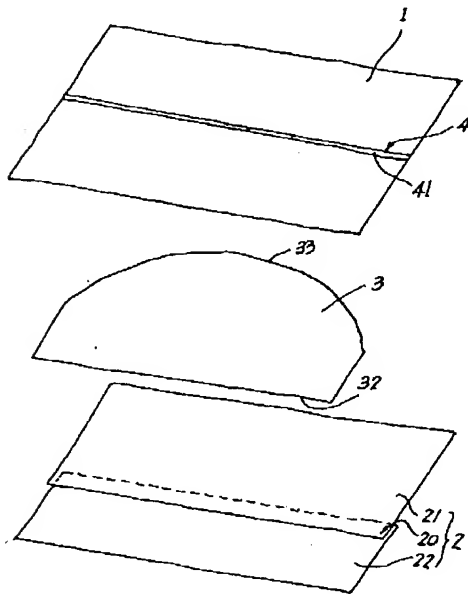
【図9】従来の包装シートの分解斜断面図である。

【図10】従来の包装円錐状寿司の海苔を被せる手順の説明図である。

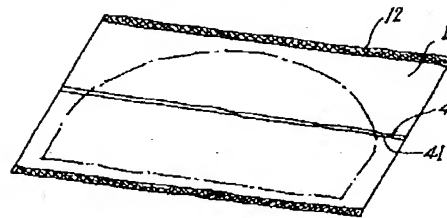
【符号の説明】

- (1) 外フィルム
- (2) 内フィルム
- (21) 幅広フィルム片
- (22) 幅狭フィルム片
- (3) シート状食品
- (4) 分離可能部

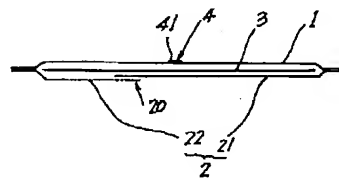
【図1】



【図2】



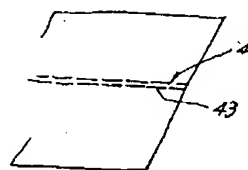
【図3】



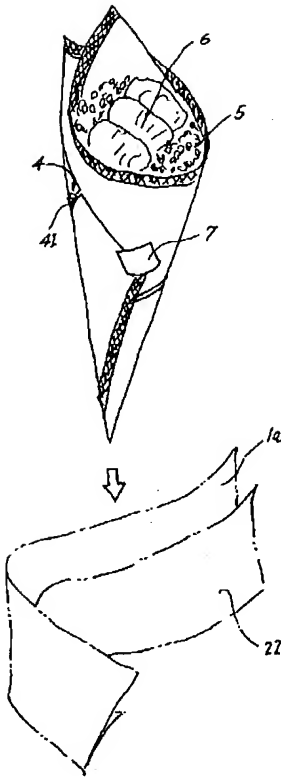
【図5】



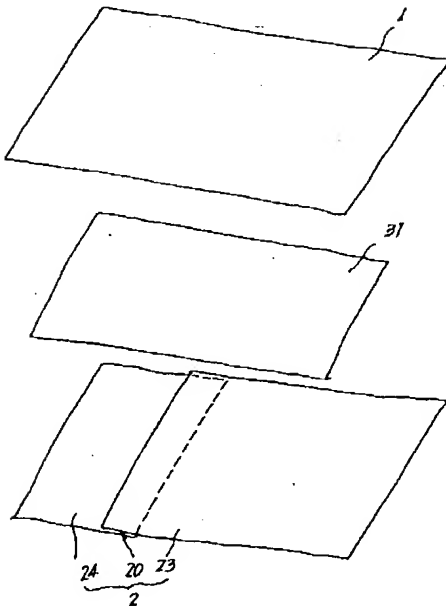
【図8】



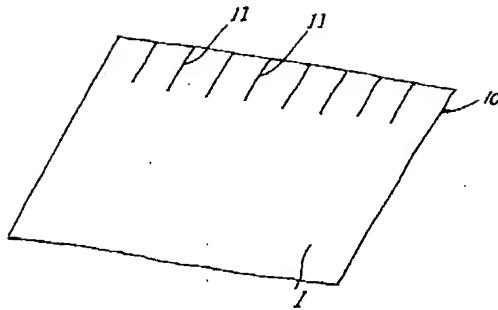
【図4】



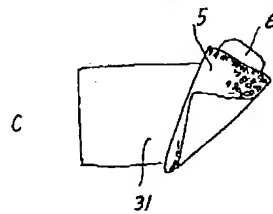
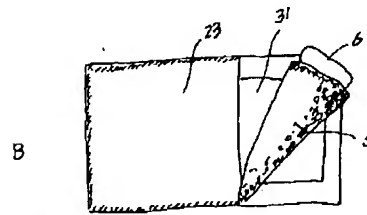
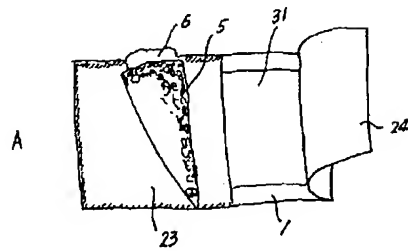
【図9】



【図6】



【図10】



【図7】

